



愛のリレーで戻ってきた インコのジョーちゃん

五十嵐キヨさん (錦湯1丁目・自営業・53歳)

ふだん何気なく目にしてきた「広報しろね」がとつても身近に感じた出来事がありました。逃げ出したインコが無事に戻ってきたのです。

市民談話室

2月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 (☎373-2111) (F333) です。

原稿募集

ところが、八月一日号の広報しろねに「迷子のインコを保護しています」という情報が載っていたのです。早速、保護してくださった大通南のUさんに連絡をしました。

広報に載せていただいたお陰で、ピーちゃんがわが家へ帰ってきたのです。Uさんはじめ、皆さんの愛のリレーで、想像を超えた長旅にもかかわらず、無事に家へ戻ることができました。本当にうれしく、家族一同感謝の気持ちでいっぱいです。

一カ月もの間、他人の飯を食べてきて、昔話を忘れちゃったかな?と心配したのですが、



そんなことはありません。ちゃんと覚えていてくれました。これはひとえに、Uさん方かわいがられていた証しです。Uさんにはピーちゃんに成り代わり、厚くお礼申し上げます。東京永田町には、異様な風が吹き荒れています。世の中にはまだまだ、温もりがいつぱい残っています。そんな心地に駆られたピーちゃんの脱走事件でした。



秋風にそよぐアシのつばやき

東樹 友次さん (錦湯1丁目・無職・79歳)

人間は考えるアシである。年配になると腰をさする人、腰の痛みを訴える声をしばしば聞く。また、つえにすがる人も多くなる。

人間は元来四つ足動物であったのに、二本の足で歩く工夫をしたばかりに、他の動物を見下げて自ら万物の霊長だと、ごう慢と不遜の鼻をピクつかせ続けてきた。その報いとして、腰の痛みを訴えるようになった。六十キロの体重を四本の足で支えれば一本の足は十五キロの荷重となるが、二本の足で支えれば三十キロの荷重となる。十五キロの重量を腰に掛けるか、その二倍の三十キロを腰に加える



国際絞り会議に参加して 伝統の中から新しいものを

秋山 洋子さん (魚町・主婦・51歳)

私は昨年から市民文化講座の白根絞り講座を受講しています。講師のサークル「ふきのとう」の皆さんが、名古屋で開催された国際絞り会議に参加され、私も一緒にさせていただきました。国際絞り会議が開かれた十一月二十一日から二十三日までの三日間は、休む暇も惜しみ、意欲的に見、聞き、実技に挑戦してきました。

の数々。その素晴らしい感じは、ただ感嘆するばかりでした。新しい感覚の絵画的な作品や、華麗にして豪華な作品、また一方では実用的なものまで、それぞれに創意工夫が見られ、しかも洗練されたデザインのものばかりでした。



教師の考え方に見る 仕事に対する情熱

小林 久子さん (上赤浜・農業・41歳)

私には三人の子供がいます。一番上の子は公立の農業高校三年生。二番目は私立高校一年生です。最近、折に触れて痛切に感じる点があります。それは公立高校と私立高校の先生方の、教師としての仕事に対する情熱の深さに、あまりに大きな違いがあることです。

「さすが外人さん」と言いたくなるような、身に着いたおしゃべりを感じました。会場の内外にはいろいろな字びたいものが、まだまだたくさんありました。私たちがこれからは限られた中で、絞りの技法をもっと深く研究するとともに、染色にも力を入れたいと思えます。白根絞りという先人の生み、育てた伝統を引き継ぎながら、その中から新しいものを作り出す

とを信条として、最低レベルの高校を、生徒も先生も生き生きと輝く素晴らしい学校に変えてしまいたい。私にもそんな勇氣と行動力が欲しいと痛感しました。



市民文芸

俳句

襦袢がよく似合ふ葉山子の顔なり
成沢 素明
祖の鮭一匹に立ち向かふ
樋口 トシ
車中の目一つに集め雪の富士
木村 トリ
小豆稲架より豆稲架のチヨト高し
五十嵐寛吾
傍らの辞書古びたり文化の日
和泉 伸子
折れやすき枝を起こして黄菊摘む
小林 すみ
街燈に華やぐ銀杏黄葉かな
細貝 漢子
遠目にも籬の山茶花咲きにけり
古川 綾
石段の少し崩れし巻の玉
知野信一郎
夕映の弥撒の鐘の音蕩紅葉
豊木サダ子
(以上天風会)
本年もうまる酒造りにと社氏行く
玉木 長吉

短歌

七十歳健康診断受けたるに
十年保証と言はる寂しき
小出熊四郎
老いたりて真夏のさ中は冬待ちて
冬来たりなば夏恋しけり
霞立つ夢の大橋瀬戸内
鳥の五つを波り響びゆる
中村 京
除夜の鐘響き終わりて新年迎へ
貴方も元氣か初電話声聞く
長谷川久二

川柳

小出よしの
シルクには馴染まぬ汗が流れ落ち
田中 成子
国中の募金で日本の新春が明け
高橋祐四雄
親の見栄晴れ着がまぶし成人日
田村 恒夫
言葉だけ飾る男の二枚舌
竹石 基五
百年に決めた鄙にも稀な嫁
中村 尚治
着飾った親が勝つて五三三
早川 英男
故里に心あづけて賞状読む
西条 ムラ
それぞれの願ひ新たな飾り
山岡 フミ
セクハラに耐えOLの出動簿
吉川 彰
ポリーナスがトラックで来た十二月
米野 光雄
〇オの笑顔が仲裁する喧嘩
今井 七郎
出世したらしく隣へ郵パック
織田 福治
ライバルが言葉飾る腹の底
織田 セツ
うらめしい目で睨まれる生き作り
後藤マサノ
美しい女性は何んにも飾らない
佐藤トミノ
せめてもの余生を飾る身嗜み
佐藤ヨキ



国際絞り会議で

国際絞り会議で